

出演者プロフィール



トヨタ・マスター・プレイヤーズ，ウィーン

ウィーン国立歌劇場の協力を得て、本公演のために特別に編成された世界最高水準の室内オーケストラ。

ウィーン・フィル、ウィーン国立歌劇場のメンバーを中心に、ヨーロッパで活躍するアーティスト仲間たちも加わった 30 名で編成されている。

〔芸術監督： Folkhard Steude・シュトイデ〕

■芸術監督・コンサートマスター



Folkhard Steude 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター〉

1971 年ライプツィヒに生まれ、5 歳よりヴァイオリンを始める。88 年ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学に入学、ヨアヒム・シュルツ、ヴェルナー・シュルツ両教授に師事。大学在学中、エスタ国際ヴァイオリン・コンクール第 4 位入賞、シュポア国際ヴァイオリン・コンクールにて特別賞を受賞する他、グスタフ・マーラー・ユース管弦楽団の第 1 コンサートマスターを務める等、オーケストラ奏者としても活躍。94 年同大学卒業と同時にウィーンに留学、元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団奏者であるアルフレド・スター教授に師事。同年コンサートマスターとしてウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団、98 年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団、99 年よりコンサートマスターを務めている。2002 年には自らが主宰するシュトイデ弦楽四重奏団を結成する等、ソロや室内楽の多方面で活躍している。

■ソリスト



小菅 優 Yu Kosuge 〈ピアノ〉

2005年カーネギーホールで、翌06年にはザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビュー。ドミトリエフ、デュトワ、小澤等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響等と共演。10年ザルツブルク音楽祭でボゴレリッチの代役としてヘレヴェッヘ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演。13年2月服部譲二指揮ウィーン室内管と共演、同年12月ロンドン ウィグモア・ホールでリサイタル。2010年から15年にはベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会（全8回）を東京、大阪で行い各方面から絶賛を博した。さらに現在はソロだけでなく室内楽や歌曲伴奏を含む、ベートーヴェンのすべてのピアノ付き作品を徐々に取り上げる新企画「ベートーヴェン詣」に取り組んでいる。第13回新日鉄音楽賞、04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオークラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。14年に第64回芸術選奨音楽部門 文部科学大臣新人賞、17年に第48回サントリー音楽賞受賞。16年秋、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全集完結記念ボックスセットをリリース。2017年から4つの元素「水・火・風・大地」をテーマにした新リサイタル・シリーズ『Four Elements』に取り組み2020年秋に最終回を迎えた。



Birgit Rams-Gaal 〈ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団ソロ・フルート〉

クレムス・アン・デア・ドナウ（オーストリア）に生まれる。ウィーン国立芸術大学にて W.シュルツ、B.ギスラー-ハーセの両氏に師事。ミュンヘン国立音楽大学にて A.アドリアンに師事。1996 年オーストリア青少年音楽コンクール第 1 位及び特別賞、2000 年ウィスバーデン・モーツァルト賞、2005 年ジャン＝ピエール・ランパル国際フルート・コンクール優勝など、数多くの受賞歴を持つ。また、日本財団、メニューイン・ファンデーション、グスタフ・マーラー管弦楽団などより助成金を授与される。ソリストとして、これまではトーンキンスラー管弦楽団、パリ室内管弦楽団、カメラータ・ハンブルグ、ウィーン交響楽団バロック・アンサンブル、東京室内管弦楽団などと協演。ザルツブルク音楽祭を始め、リヒャルト・シュトラウス音楽祭等世界各地の主要音楽祭に出演。現在、ウィーン・フォルクスオーパー管弦楽団のソロ・フルーティストを務める。



Bernhard Heinrichs 〈チューリッヒ歌劇場管弦楽団ソロ・オーガエ〉

1963 年バンベルク（ドイツ）に生まれる。ミュンヘン音楽大学にて G.パッシン教授に師事。アーキス五重奏団のメンバーとして、ボンで開催したドイツ音楽コンクールを始め、ベオグラード（セルビア）、コルマール（フランス）等で開催された音楽コンクールにて受賞。91 年チューリッヒ歌劇場管弦楽団のソロ・オーガエ奏者に就任。N.アーノンクール、F.ウェルザー＝メスト、C.アバド、R.シャイー、C.v.ドホナーニ、B.ハイティンク等の著名な指揮者と共演する他、ザルツブルク音楽祭やシュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、PMF 等の世界各地の音楽祭に招かれ、S.マイヤー（クラリネット）、C.テツラフ（ヴァイオリン）、G.オピッツ（ピアノ）、C.エッセンバッハ（ピアノ）、L.O.アンズネス（ピアノ）等一流音楽家と共演し、室内楽奏者として活躍している。また、画家としてのキャリアも持ち、チューリッヒ、オスロ、マイアミ、ミュンヘン、ウィーン、ストックホルム等で絵画が展示されている。

■指揮（プログラムC）



秋山 和慶 Kazuyoshi Akiyama

1941 年生まれ。斎藤秀雄のもとで指揮法を修め、1963 年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964 年 2 月に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を 40 年間にわたり務める。その間、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキウス響音楽監督などを歴任。また、ニューヨーク・フィル、ボストン響、クリーヴランド管、シカゴ響、ケルン放響、ベルリン放響、北ドイツ放響、スイス・ロマンド管など世界の一流オーケストラに客演している。これまでにサントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、大阪芸術賞、毎日芸術賞、川崎市文化賞、京都音楽賞大賞等を受賞。2001 年紫綬褒章、2011 年旭日小綬章を受章。2014 年度文化功労者に選出。

現在、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者、日本センチュリー交響楽団ミュージックアドバイザー、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者など多くの任を務めるほか、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授を務めている。

■管弦楽（プログラム C）



名古屋フィルハーモニー交響楽団 Nagoya Philharmonic Orchestra

日本有数のオーケストラの一つとして、愛知県名古屋市を中心に東海地方の音楽界をリードし続けている。2016年小泉和裕が音楽監督に就任。指揮者陣には、川瀬賢太郎（正指揮者）、小林研一郎（桂冠指揮者）、モーシェ・アツモン（名誉指揮者）、ティエリー・フィッシャー（名誉客演指揮者）が名を連ねている。また、藤倉大、酒井健治に続き、2020年4月には坂田直樹が第3代コンポーザー・イン・レジデンスに就任。楽団創立は1966年7月。1973年に名古屋市の出捐により財団法人に、2012年に公益財団法人となる。意欲的なプログラミングの「定期演奏会」をはじめ、有名作品を中心に取り上げる「市民会館名曲シリーズ」、「福祉コンサート」、「名古屋市内小・中学校移動音楽鑑賞教室」等、バラエティに富んだ年間約120回の演奏会を実施している。

■メンバー

[ヴァイオリン]



ミラン・セテナ Milan Šetena 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

プラハに生まれる。1988 年プラハ音楽院を卒業後、ウィーンにて A.スター教授に師事。90 年ウィーン国立歌劇場管弦楽団およびウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。室内楽奏者として、ザルツブルクをはじめとする音楽祭に出演し、世界各地で演奏活動を行う。また、ウィーン・ストリング・ソロイスツのメンバー、シュルホフ弦楽四重奏団の第 1 ヴァイオリン奏者を務めている。



ドリアン・ジョジ Dorian Xhoxhi 〈ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1984 年ティラナ（アルバニア）の音楽一家に生まれ、6 歳より父のもとでヴァイオリンを始める。ミュンヘン音楽大学、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学にて研鑽を積み、2006～09 年ヴィラ・ムジカの特待生として、五嶋みどり、R.ファイン、Z.ブロン、E.フェルツの各氏に師事。ベルリン・ドイツ交響楽団、ゲヴァントハウス管弦楽団を経て、10 年第 1 ヴァイオリン奏者としてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。



マリアン・ガスパー Marián Gašpar 〈元カメラータ・ザルツブルク コンサートマスター〉

1970 年ブラティスラヴァ（スロヴァキア）に生まれる。89 年よりウィーン国立芸術大学にて G.ヘッツェル、R.キュッヒル、A.スターの各教授に師事。ウィーン・カンマーフィルハーモニー、ウィーン・カンマー・オーケストラ、カメラータ・ザルツブルクのコンサートマスター、またカペラ・イストロポリターナ、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、スピリット・オブ・ヨーロッパ管弦楽団のゲスト・コンサートマスターを歴任。



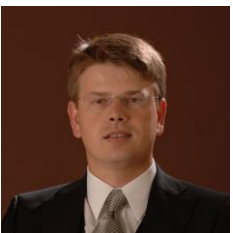
アルヴァロ・パラ Álvaro Parra 〈ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1977 年コンセプション（チリ）に生まれる。96 年よりベルリンのハンス・アイスラー音楽大学にて S.ピカードと M.ミュッケの両教授に師事し、2002 年ベルリン・フィルのカラヤン・アカデミーへ入学。05 年チリ・カトリック大学のヴァイオリン教授に就任。08 年再びベルリンへ戻り、コンツェルトハウス管弦楽団第 1 ヴァイオリン奏者を経て、13 年第 1 ヴァイオリン奏者としてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。



シュケルツェン・ドリ Shkelzen Doli 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

アルバニアに生まれる。セルビアのノヴィ・サド音楽学校を経てウィーン芸術大学を卒業。17 歳でユーゴスラヴィア青少年音楽コンクールに優勝し、ソリストや室内楽奏者としてヨーロッパ、北米、アフリカ、イスラエル、日本等の各地で演奏。2006 年ウィーン国立歌劇場管弦楽団、09 年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団する他、ウィーン・ヴィルトゥオーゼン、アンサンブル・ウィーン・カレッジ、ザ・フィルハーモニックス等のメンバーを務めている。



アンドレアス・ノイフェルド Andreas Neufeld 〈ベルリン放送交響楽団〉

1976 年クラスノダル（ロシア）に生まれる。2000 年ハイデルベルク-マンハイム音楽大学卒業。EU ユース・オーケストラ、グスタフ・マーラー・ユース管弦楽団、ドイツ・オペラ・ベルリン、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ベルリン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団等に出演。98～09 年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第 1 ヴァイオリン奏者を務め、12 年よりベルリン放送交響楽団第 1 ヴァイオリン・フォアシューピラーを務めている。



ミヒャール・マチャシチック Michał Maciaszczyk 〈ウィーン国立歌劇場管弦楽団客演奏者〉

8 歳から音楽教育を受ける。ポズナン音楽大学卒業。M.ヤシュヴィリ、Z.ブロン、M.シュヴァルベ、A.スターの各教授に師事。ソリスト、室内楽奏者としての活動の他、ラジオ、テレビへの出演、CD レコーディング等にも参加している。2012 年ヴォヤヌフ芸術祭音楽監督を務める。現在、ウィーン国立歌劇場管弦楽団の客演奏者として活躍する他、世界各地で演奏活動を行っている。



オレアダ・シュトイデ Oreada Steude 〈ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団〉

1973 年ティラナ（アルバニア）に生まれる。グラーツ音楽大学を最優秀の成績で卒業。94 年ゴリツィア国際コンクール優勝。グラーツ交響楽団、ウィーン室内管弦楽団、ウィーン・カンマーフィルハーモニーを経て、2001 年よりウィーン国立歌劇場の舞台管弦楽団メンバーを務める。同劇場の公演およびウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の公演にも定期的に出演している。

[ヴィオラ]



エルマー・ランダラー Elmar Landerer 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1974 年ザルツブルクに生まれる。90 年グスタフ・マーラー・ユース管弦楽団および EU ユース・オーケストラに入団。96 年ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また、99 年よりウィーン・フィルハーモニア・トリオ、ベルヴェデーレ・トリオ、2000 年よりウィーン・ヴィルトゥオーゼン、02 年よりシュトイデ弦楽四重奏団等のメンバーを務めている。



ペーター・サガイシュック Peter Sagaischek 〈ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団ソロ・ヴィオラ〉

1965 年ウィーンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にて R.キュッヒル、A.スターの両教授に師事。90 年ヴィオラ奏者としてウィーン・フォルクスオーパー交響楽団に入団。93 年より同楽団のソロ・ヴィオラ奏者を務める。室内楽奏者として、これまでフィルハーモニー弦楽四重奏団、グスタフ・マーラー四重奏団、トリプルス・ウィーンのメンバーを務める他、ソリストとしても活躍している。



クララ・シュヴァイガー Clara Schwaiger 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 客演〉

ザルツブルクに生まれる。ウィーン国立芸術大学にてT.セルディッツ教授に師事。同大学にて優秀な成績で卒業後、セルディッツ教授のアシスタントを務める傍らに。室内楽奏者として、多くのアーティストと共演し、信頼を得ている。また、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン国立歌劇場、ウィーン交響楽団など多くのオーケストラの客演奏者としても活躍。2018 年秋よりウィーン国立芸術大学にて後進の指導に当たる。

〔チェロ〕



ペーテル・ソモダリ Péter Somodari 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/ウィーン国立歌劇場管弦楽団 ソロ〉

1977 年にヴェスプレーム（ハンガリー）に生まれる。4 歳よりチェロを始める。ブダペスト、ザールブリュッケンの音楽院にて研鑽を積む。2005 年マルクノイキルヘン国際コンクールにて優勝を飾る。室内楽奏者として、C.テツラフ、L.カヴァコス、T. ツインーマーマン、G. クルターグなど多くの音楽家と共演。ハンガリー国立歌劇場、ルツェルン交響楽団を経て、2012 年にウィーン国立歌劇場及びウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のソロ・チェリストに就任。2018 年よりウィーン国立芸術大学客員教授を務める。



エディソン・パシュコ Edison Pashko 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1973 年コルカ（アルバニア）に生まれる。93 年グラーツ音楽大学に入学。リーゼン国際チェロ・コンクール第 2 位受賞。2010 年ウィーン国立歌劇場管弦楽団、13 年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また、現代音楽の分野でも精力的に活動し、ウィーン放送交響楽団、アンサンブル・ディ・ライヘ、アンサンブル・ウィーン・カレッジの現代音楽コンサートに出演している。



グンドゥラ・ライトナー Gundula Leitner 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 客演〉

リンツに生まれる。モーツアルテウムを優秀な成績で卒業。ベルリン・コミッシュ歌劇場アカデミーを経て 2015 年よりウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の客演奏者を務める。ソリストとして、これまではトーンキンスラー管弦楽団、モーツアルテウム管弦楽団、ザルツブルク室内管弦楽団などと協演、また室内楽奏者としてエジンバラ音楽祭、ザルツブルグ音楽祭などに出演。16/17 シーズンはブリュッセル王立歌劇場のソロ・チェリストを務める。

〔コントラバス〕



ヨゼフ・ニーダーハマー Josef Niederhammer 〈ソリスト/ウィーン国立音楽大学教授〉

1977 年ウィーン国立音楽大学卒業。ウィーン交響楽団、バンベルク交響楽団、バイエルン州立管弦楽団を経て、86～91 年ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コントラバス奏者を務める。ミュンヘン音楽院、ミュンヘン国立音楽大学等の教授を歴任する他、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の客演奏者や、室内楽奏者としても活躍している。現在、ウィーン国立音楽大学教授を務めている。



ミヒャエル・ブラーデラー Michael Bladerer 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1968 年ヴァイドホーフェン（南オーストリア）に生まれる。ウィーン国立音楽大学を最優秀の成績で卒業。ウィーン交響楽団、ベルリン・コーミッシェ・オーパー等を経て、99 年にウィーン国立歌劇場管弦楽団、2002 年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また PMF や南カリフォルニア大学、ニューイングランド音楽院等でマスタークラスを開催。ウィーン八重奏団等のメンバーを務めている。

〔フルート〕



マティアス・シュルツ-アイグナー Matthias Schulz-Eigner 〈ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団〉

1972 年ウィーンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にて父の W.シュルツ氏に学び、最優秀の成績で卒業。ソリストとして、これまでウィーン室内管弦楽団、ブルックナー管弦楽団、ザルツブルク・モーツアルテウム管弦楽団、中部ドイツ放送交響楽団等と協演し、各地の音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン放送交響楽団等に出演している。

〔オーボエ〕



ヘルベルト・マデルターナー Herbert Maderthaner 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1981 年ヴァイドホーフェン（南オーストリア）の音楽一家に生まれる。7 歳より兄の元でクラリネットを始める。その後オーボエの音色に魅了され、96 年に転向し、2000 年ウィーン市立音楽院に合格。05 年よりウィーン放送交響楽団の第 2 オーボエ及びコールアングレ奏者を 5 年間務めたのち、10 年にウィーン国立歌劇場管弦楽団、13 年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また、室内楽奏者としても活躍している。

〔クラリネット〕



ヴォルフガング・クリンザー Wolfgang Klinser 〈カメラータ・ザルツブルク ソロ〉

1965 年オーストリアに生まれる。6 歳の時に祖父より音楽の薫陶を受ける。ウィーン国立芸術大学を優秀な成績で卒業後、ウィーン放送交響楽団のソロ・クラリネット奏者に就任。その後、ハンプルク・フィルハーモニー管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団を経て、1999 年よりウィーン室内管弦楽団、2001 年よりカメラータ・ザルツブルクのソロ・クラリネット奏者に就任。また、客演奏者としてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に招かれる。



ペーター・ロイットナー Peter Leuthner 〈ウィーン国立歌劇場管弦楽団客演奏者〉

ウィーン国立音楽大学にて P.シュミードル教授に師事し、1990 年卒業。A.プリンツ、K.ライスター両教授のマスタークラスを受ける。その後、4 年間にわたってオーストリア国立歌劇場管弦楽団のメンバーを務めると同時に、客演奏者としてウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団で演奏。97 年ウィーン・フィルのメンバー達と共に CD レコーディングを行っている。

[ファゴット]



デヴィッド・ザイデル David Seidel 〈ウィーン放送交響楽団 首席〉

1976 年ザルツブルクに生まれ。M.トルコヴィッチ、富永芳憲、R.ガラーの各氏に師事。モーツァルテウム音楽大学でオーストリア連邦政府奨励賞を受賞。1998 年にウィーン放送交響楽団に入団し、2004 年から 2019 年まで首席奏者を務める。ソリストとしてウィーン放送交響楽団、シュトゥットガルト室内管弦楽団などと協演。現在は、グラーツ国立音楽大学教授として後進の指導にあたる他、ウィーン国立芸術大学、浜松国際管楽器アカデミーなどで指導を行っている。



ビアンカ・シュースター Bianca Schuster 〈ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団〉

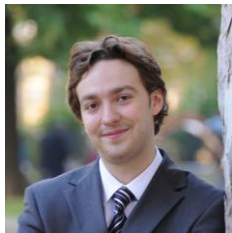
1973 年フォアアールベルク（オーストリア）に生まれる。93 年にウィーン芸術大学に入学、M.トゥルコヴィッチ、S.トゥルノフスキーの両教授に師事。2012 年よりウィーン・フォルクスオーパー管弦楽団第 1 ファゴット奏者を務める。また、客演奏者としてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン国立歌劇場などに招かれる他、ウィーン室内管弦楽団等のメンバーを務める。グスタフ・マーラー私立音楽大学教授。

[ホルン]



ロナルド・ヤネツィック Ronald Janezic 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席〉

1968 年ノインキルヘン（オーストリア）に生まれる。父親は元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のホルン奏者。6 歳よりヴァイオリンを始める。ウィーン音楽大学に入学後、83 年ホルンに転向。90 年第 1 ホルン奏者として、ウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団。92 年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ソロ・ホルン奏者を務める。また、ソリストとして、同楽団と協演した CD もリリースされている。



ヤン・ヤンコヴィッチ Jan Janković 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1984 年ザグレブの音楽一家に生まれる。96 年ウィーン市立音楽大学に入学、F.ガブラー、W.ヤネツィックの両氏に師事。2003 年最優秀の成績で卒業後、ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団やザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団を経て、08 年にウィーン国立歌劇場管弦楽団、11 年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また、ウィーン・ヴィルトゥオーゼンやウィーン木管八重奏団等のメンバーを務めている。

[トランペット]



ステファン・ハイメル Stefan Haimel 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1982 年クラーゲンフルト（オーストリア）に生まれる。小学生の頃より父の F.ハイメル氏にトランペットを学ぶ。ウィーン国立芸術大学にて J.ポンベルガー氏に師事、2002 年卒業。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとするウィーンの主要な管弦楽団にて客演奏者として活躍。04 にウィーン国立歌劇場管弦楽団、07 年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。



ゲルハルト・ベルンドル Gerhard Berndl 〈ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団〉

1981 年シュタイヤー（オーストリア）に生まれる。10 歳よりアッシュバッハ音楽学校にてトランペットを始める。ウィーン国立芸術大学にて J.ポンベルガー氏に師事し、2008 年卒業。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、ウィーンの主要な管弦楽団にて客演奏者として活躍、03 年 9 月よりウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団へ入団。

[ティンパニ]



アントン・ミッターマイヤー Anton Mittermayr 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 首席〉

1970 年オーベルンドルフ・バイ・ザルツブルク（オーストリア）に生まれる。幼少期よりピアノとオルガンを始め、1988 年より打楽器を始める。1990 年にウィーン国立芸術大学にて H.ベルガーと K.プリホダー両教授に師事。1995 年在学中にウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団、1996 年に同楽団、1999 年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ティンパニ奏者に就任。また、2002 年よりウィーン国立芸術大学シニア講師、2012 年よりウィーン市立音楽芸術大学打楽器教授も務める。